

石川労働局「第14次労働災害防止計画」(14次防) 中間年における取りまとめ

【参考統計・グラフ】



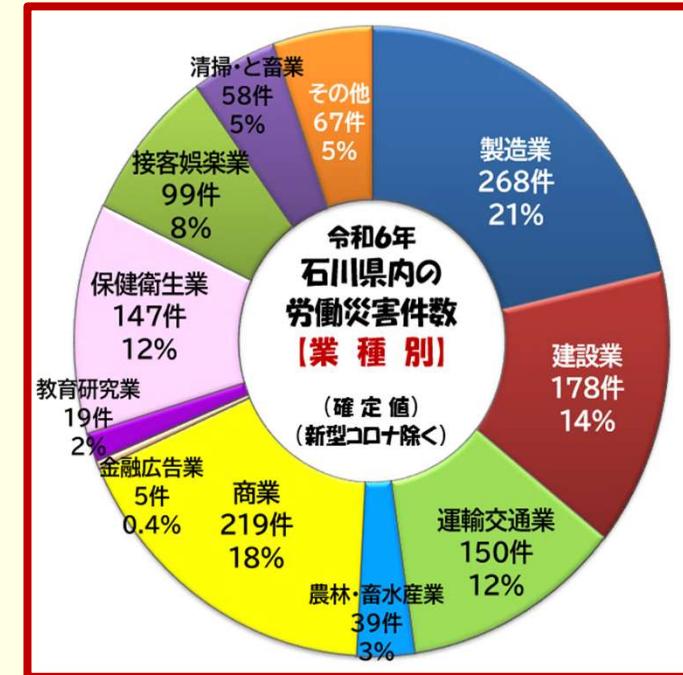
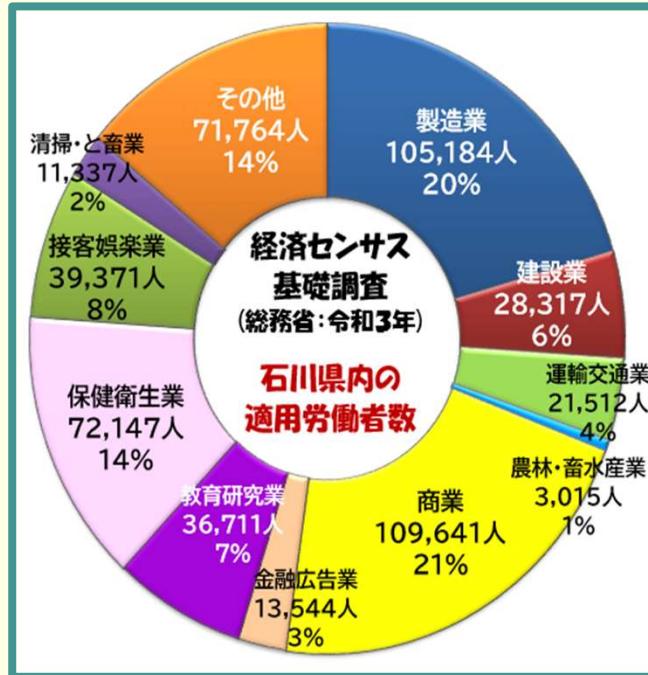
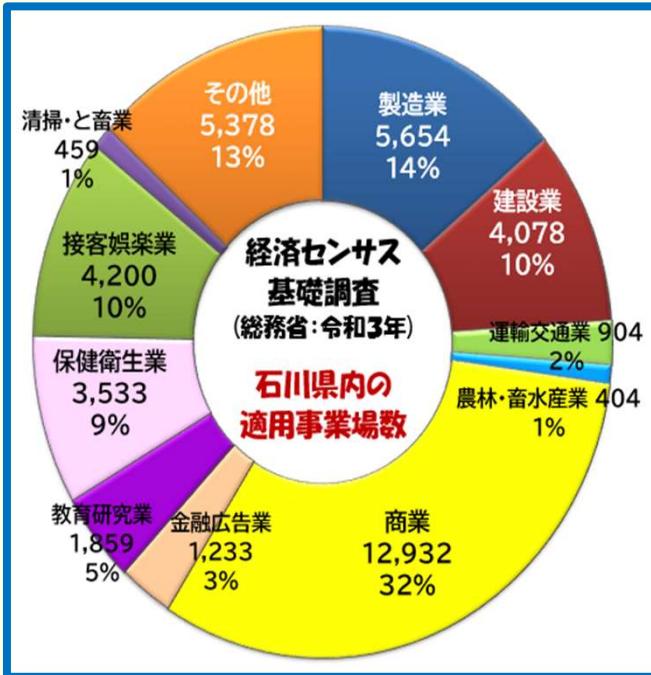
【石川労働局HP】

第14次労働災害防止計画推進中！

石川労働局

労働基準部 健康安全課

【参考統計1】石川県内の事業場数・労働者数・労働災害件数 【業種別構成比の比較】

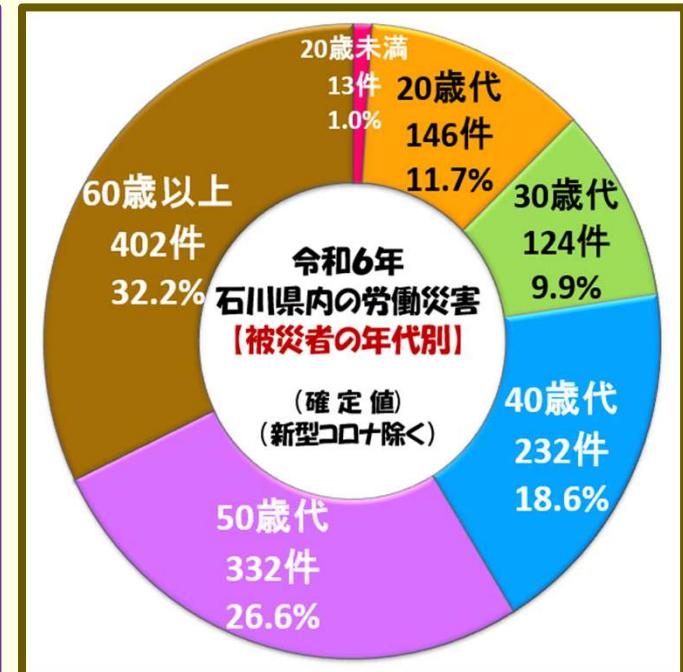
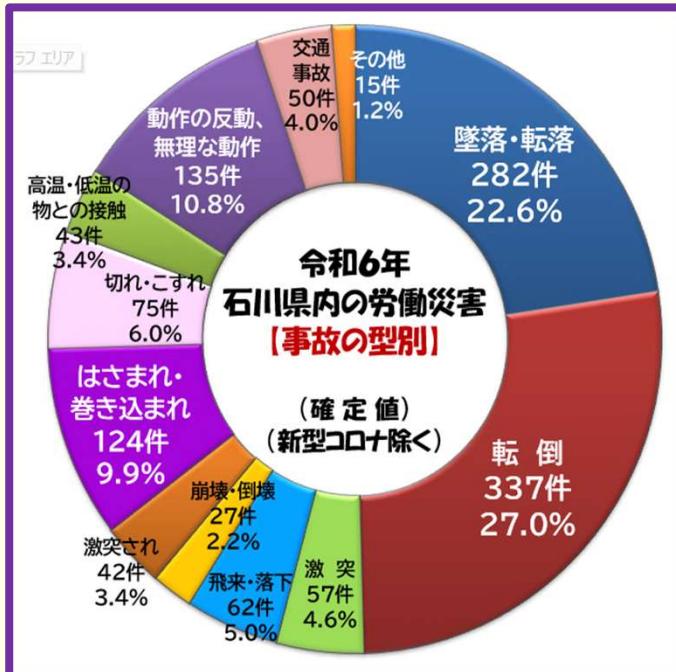
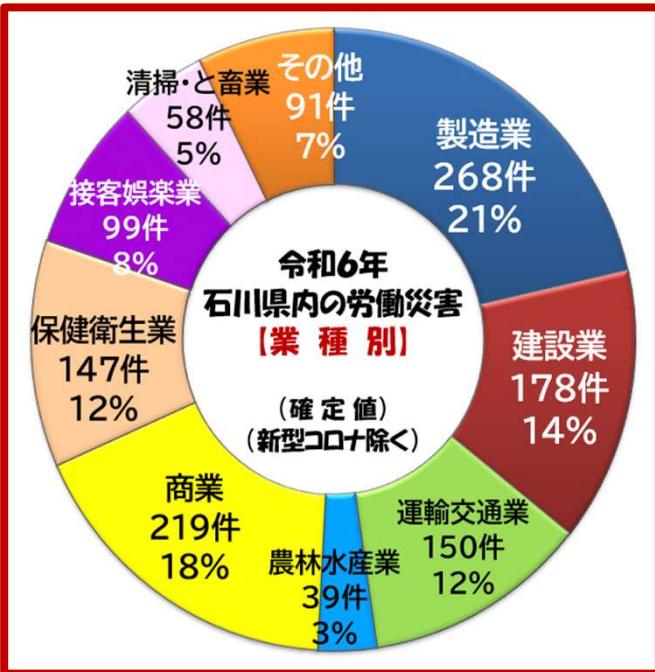


◆適用事業場数では、商業が全体の約3分の1を占めている。次いで、製造業、建設業、接客娯楽業、保健衛生業となっており、上位5業種で全体の4分の3を占めている。

◆製造業及び保健衛生業について、労働者数の比率が大きく（規模の大きい事業場が多い）建設業、商業、接客娯楽業は比率が小さい（小規模事業場が多い）。

◆能登半島地震の復旧工事の増加等による建設業の災害の増加のほか、運輸交通業（荷役災害等）、商業（転倒災害等）等が増加している。

【参考統計2】石川県内の労働災害の内訳(令和6年) 【業種別・事故の型別・年代別】

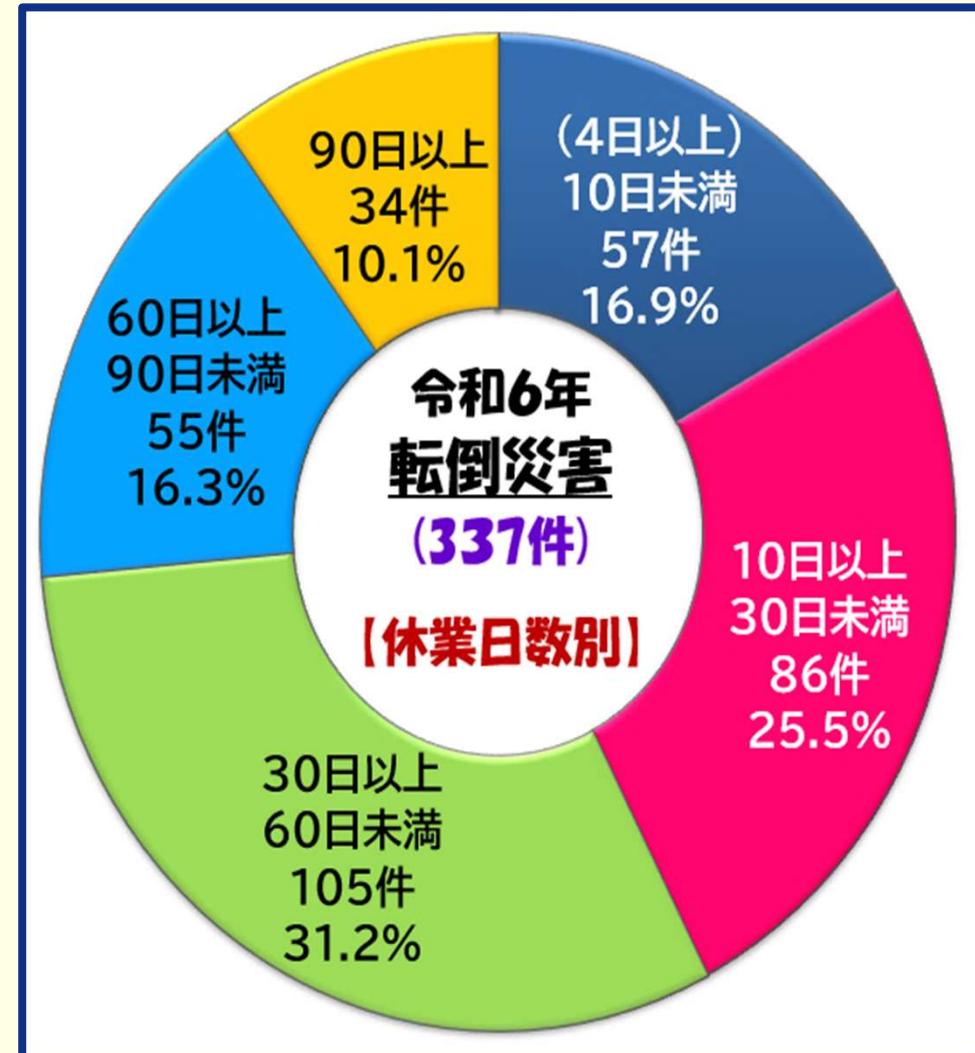
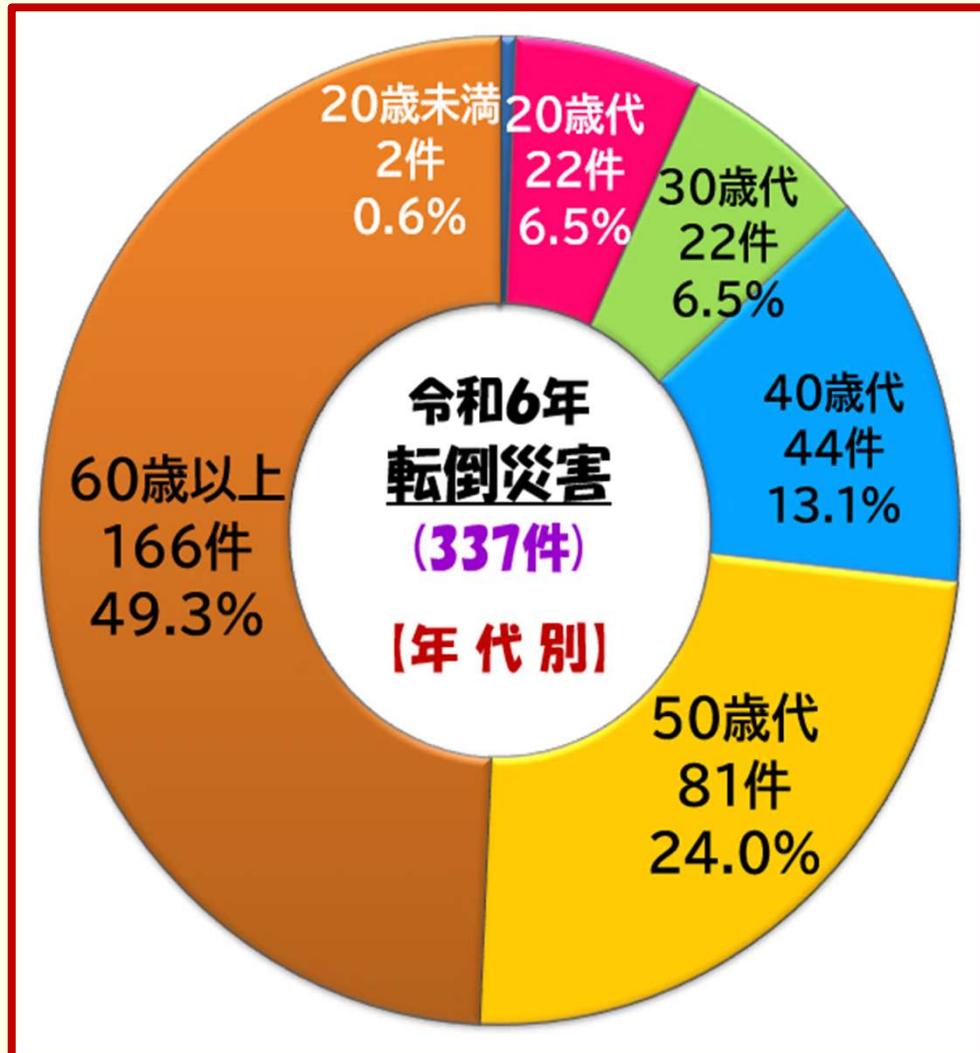


◆(再掲)能登半島地震の復旧工事の増加等による建設業の災害の増加のほか、運輸交通業(荷役災害等)、商業(転倒災害等)等が増加している。

◆転倒災害や腰痛災害(動作の反動、無理な動作)等の行動に起因する災害(「行動災害」)の占める割合が大きい状況が続いている。

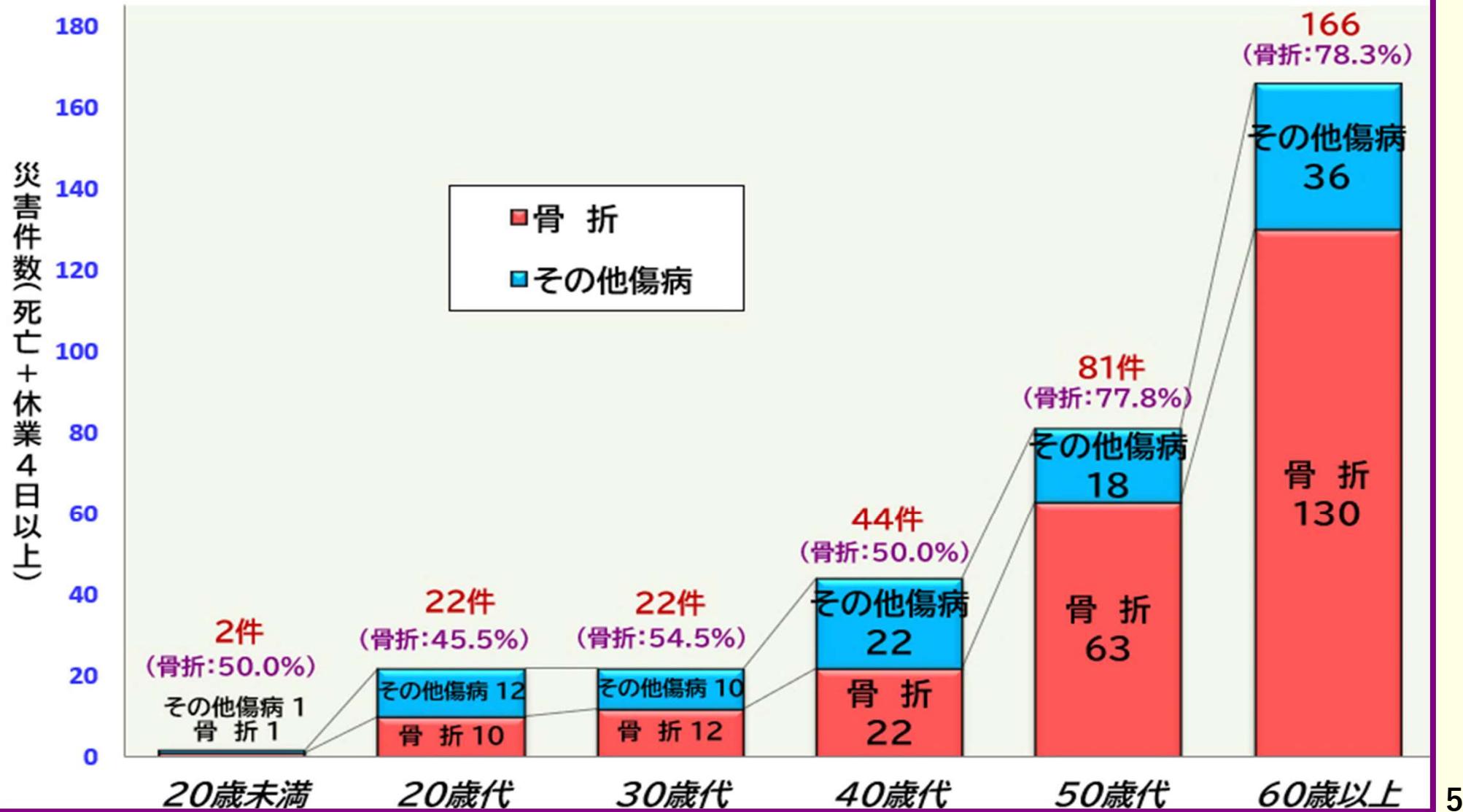
◆高年齢労働者の占める割合が大きい状況が続いている。(60歳以上が全体の約3分の1、50歳以上では約6割を占める。)

【参考統計3-1】 転倒災害の内訳 (石川県内: 令和6年) 【年代別・休業日数】

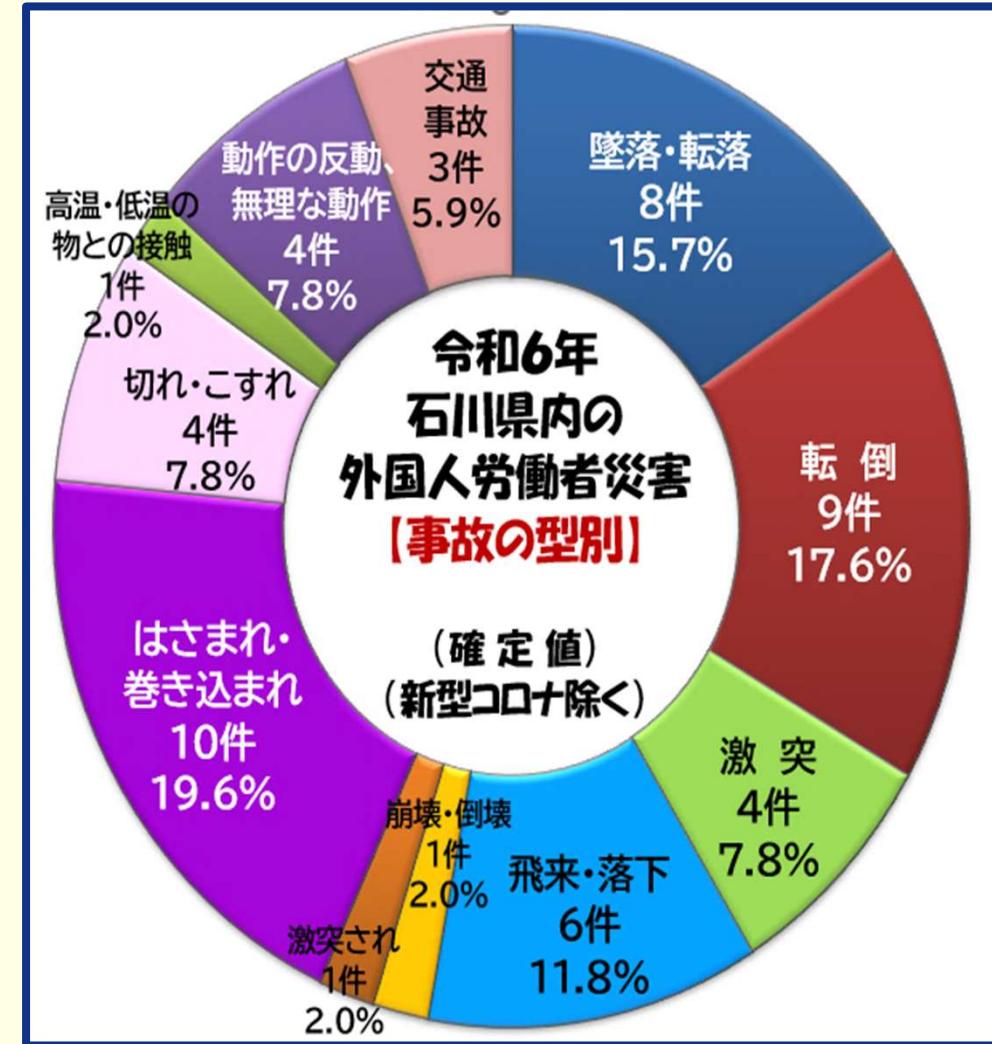
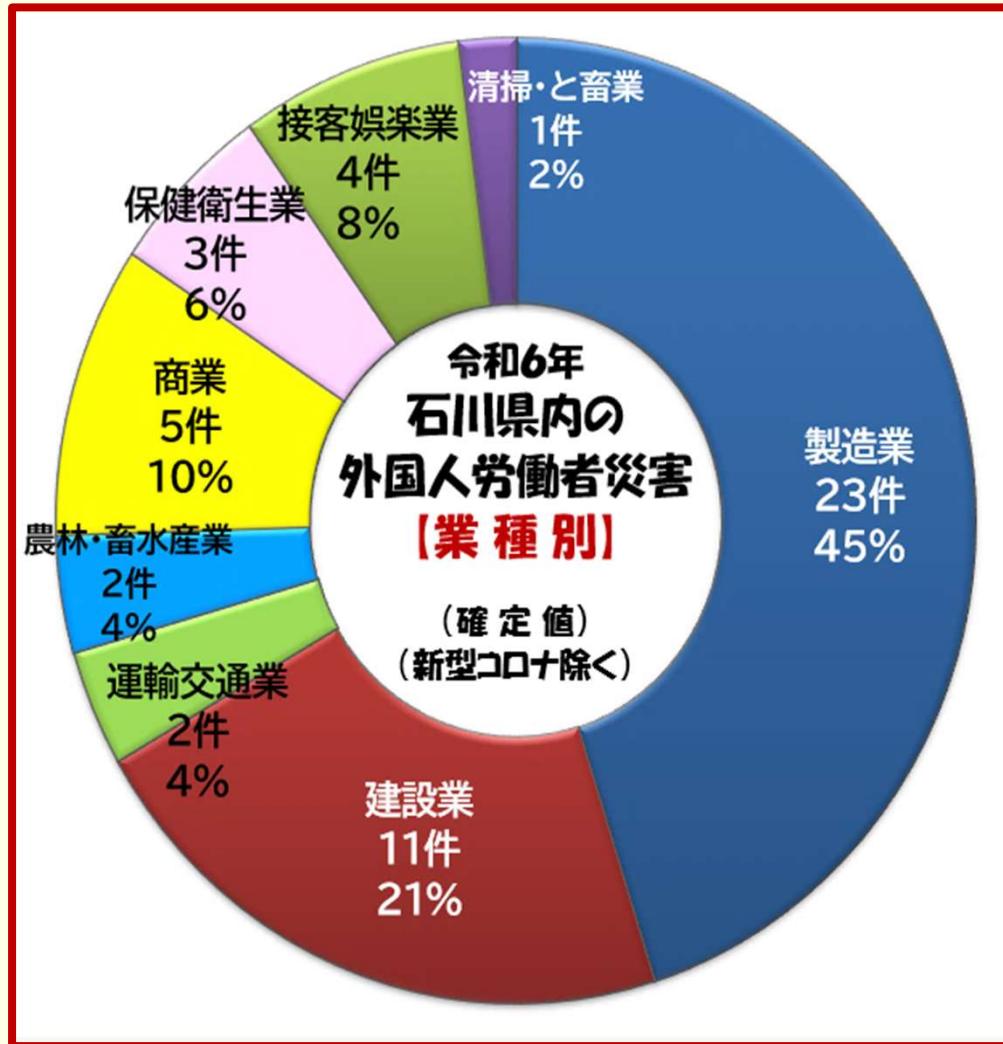


【参考統計3-2】 転倒災害の内訳（石川県内：令和6年） 【年代別・骨折災害の比率】

令和6年 転倒災害の内訳（年代別件数及び骨折災害の件数）

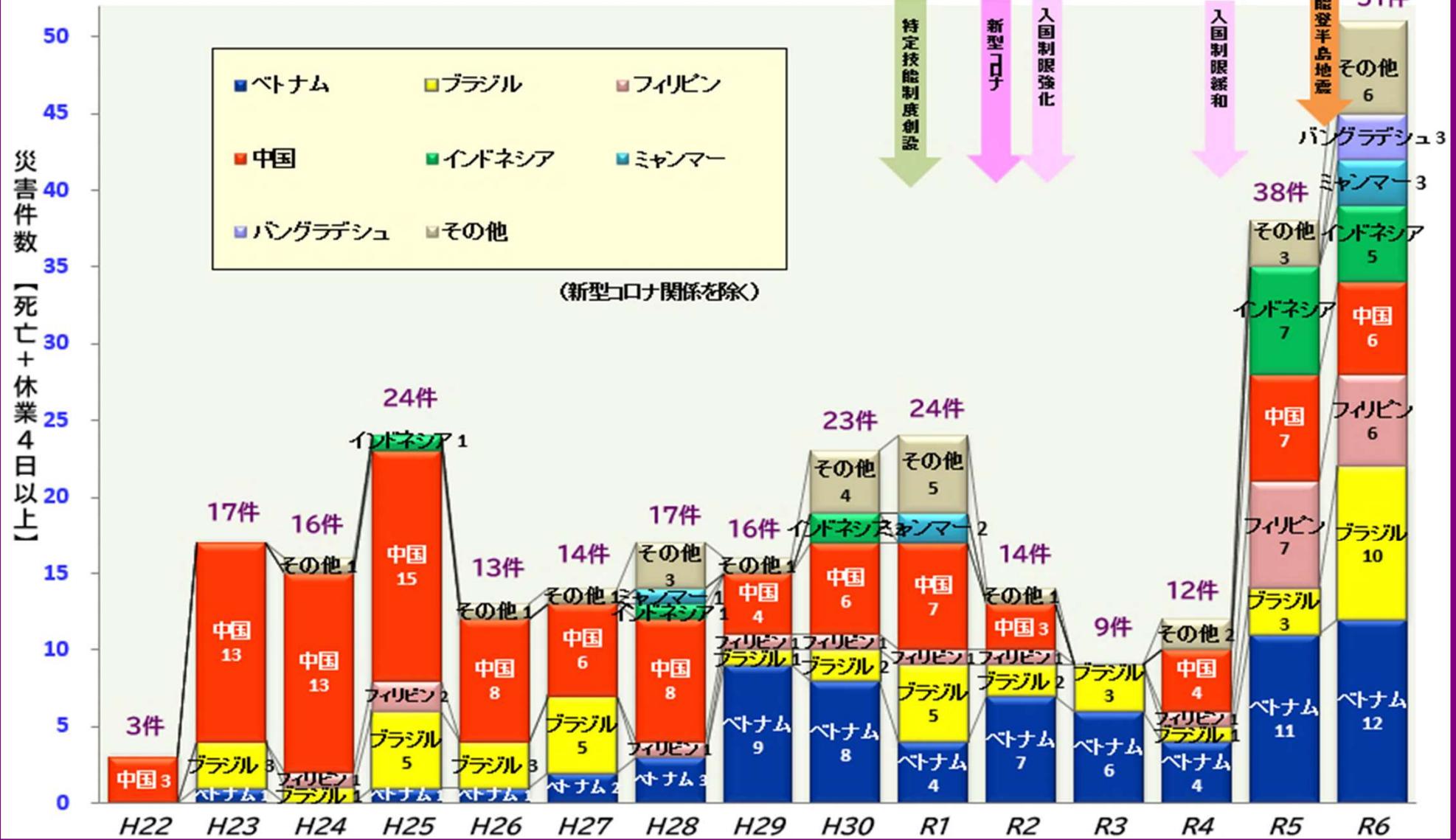


【参考統計4-1】外国人労働者の労働災害の内訳（石川県内：令和6年） (業種別・事故の型別)



【参考統計4-2】 外国人労働者の労働災害の推移（石川県内） (国籍別の内訳及び推移)

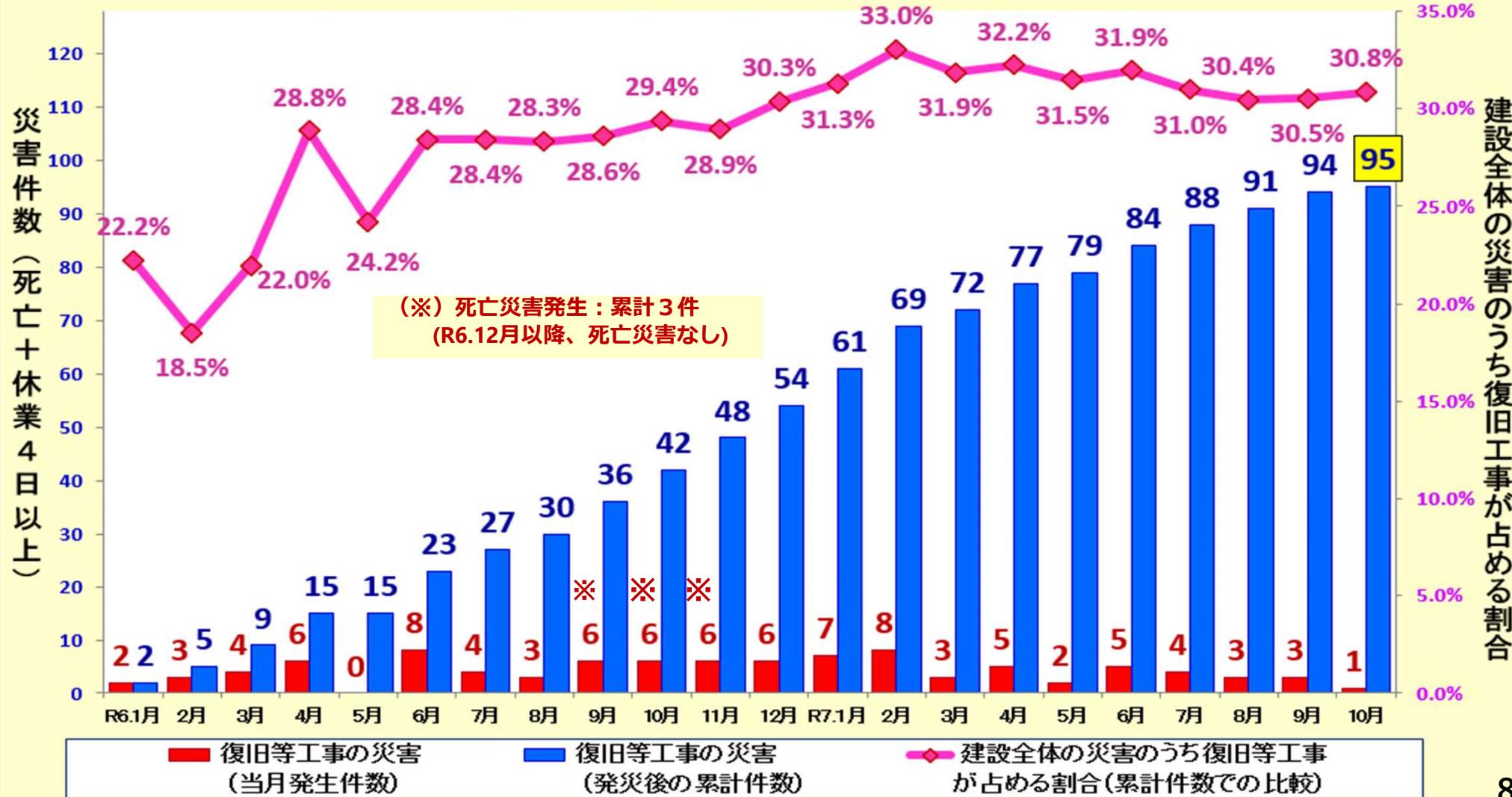
外国人労働者の労働災害の推移（国籍別） 【石川県内】



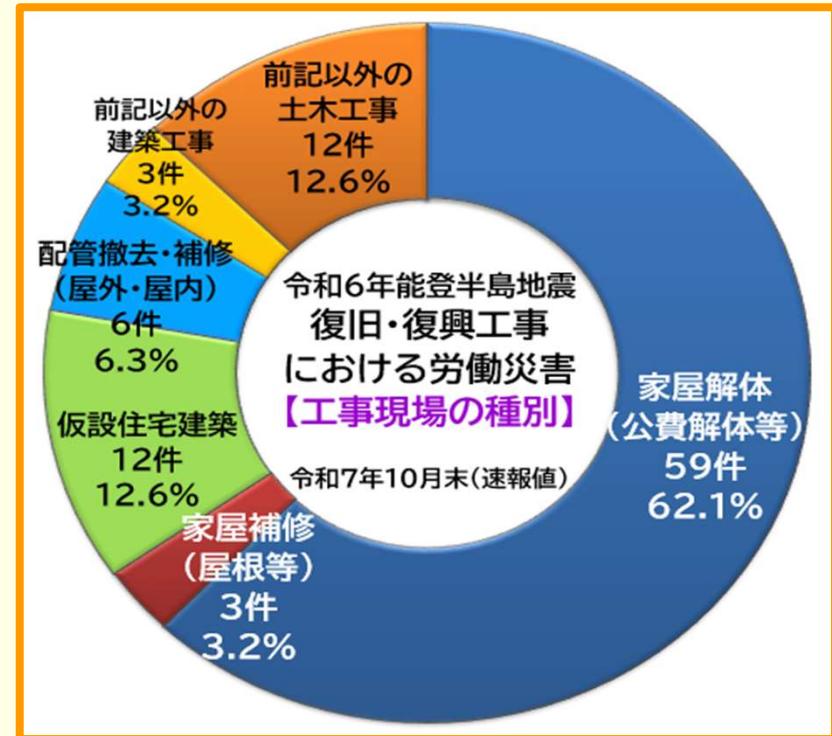
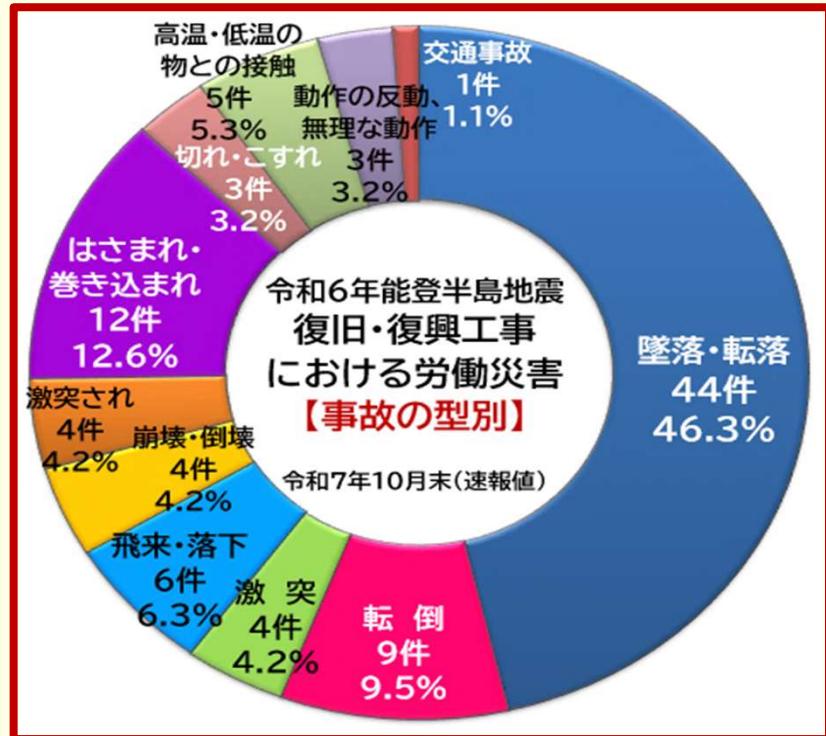
【参考統計5-1】「令和6年能登半島地震」復旧等工事の労働災害
件数(月別・累計)の推移 (建設業全体の災害のうち地震関連工事の内訳)

能登半島地震復旧等工事の労働災害(当月・累計)の推移及び
建設業全体の災害のうち復旧工事が占める割合【石川県内】

(令和7年10月末
速報値)



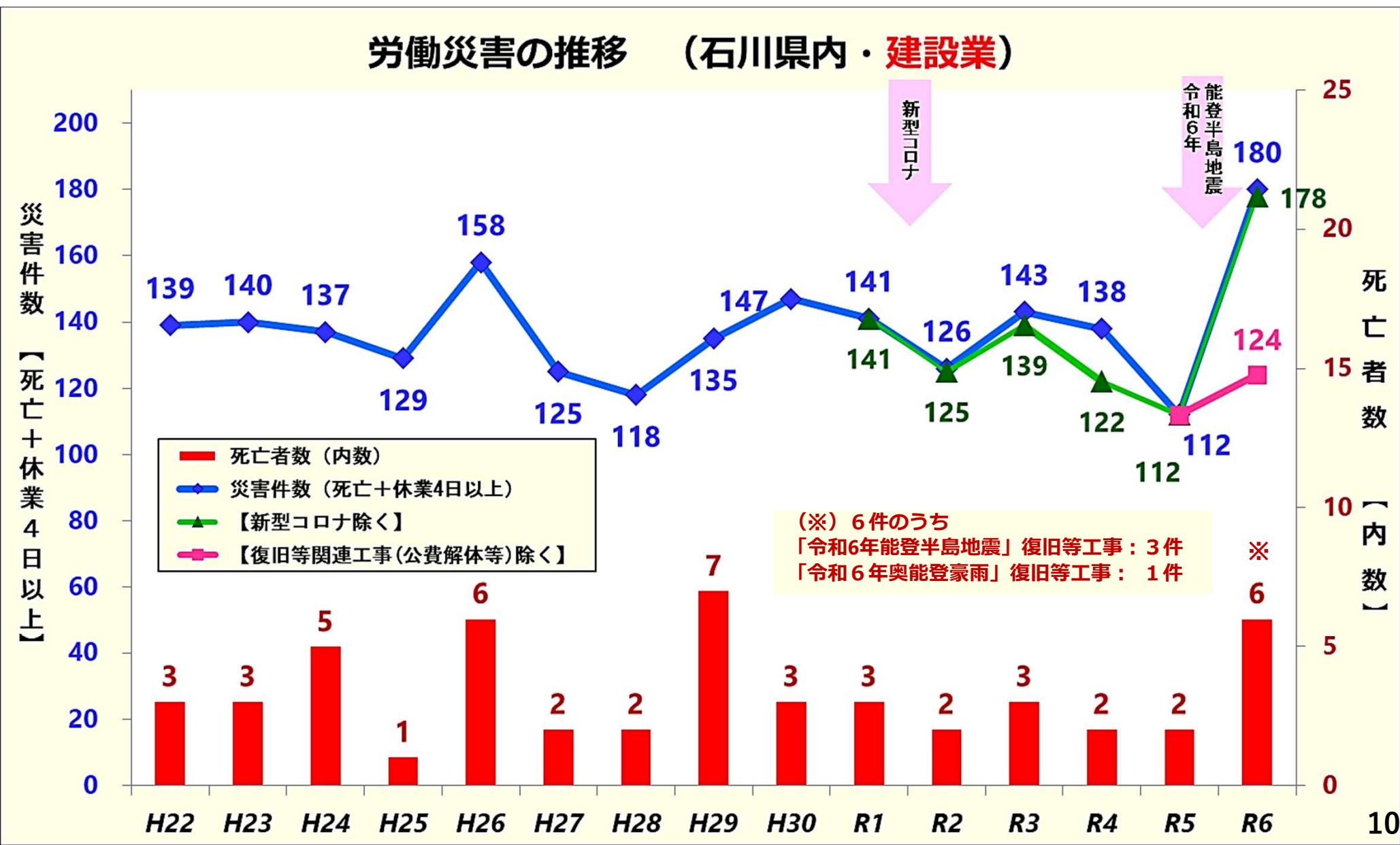
【参考統計5-2】「令和6年能登半島地震」復旧工事の労働災害の内訳（「事故の型別」内訳及び「工事現場の種別」の内訳）



- ◆ 墜落・転落災害が全体の半数近くを占め、屋根の端・梁からの墜落、脚立・はしごからの墜落・転落、トラック・ダンプの荷台からの転落等が多い。
- ◆ はさまれ、巻き込まれ災害が2番目に多く、12.6%を占めており、建設機械への挟まれ事案及び敷鉄板への足の挟まれ事案等が複数発生している。
- ◆ 転倒災害が3番目に多く、9.5%を占めており、廃材等の運搬作業中の転倒が複数発生している。

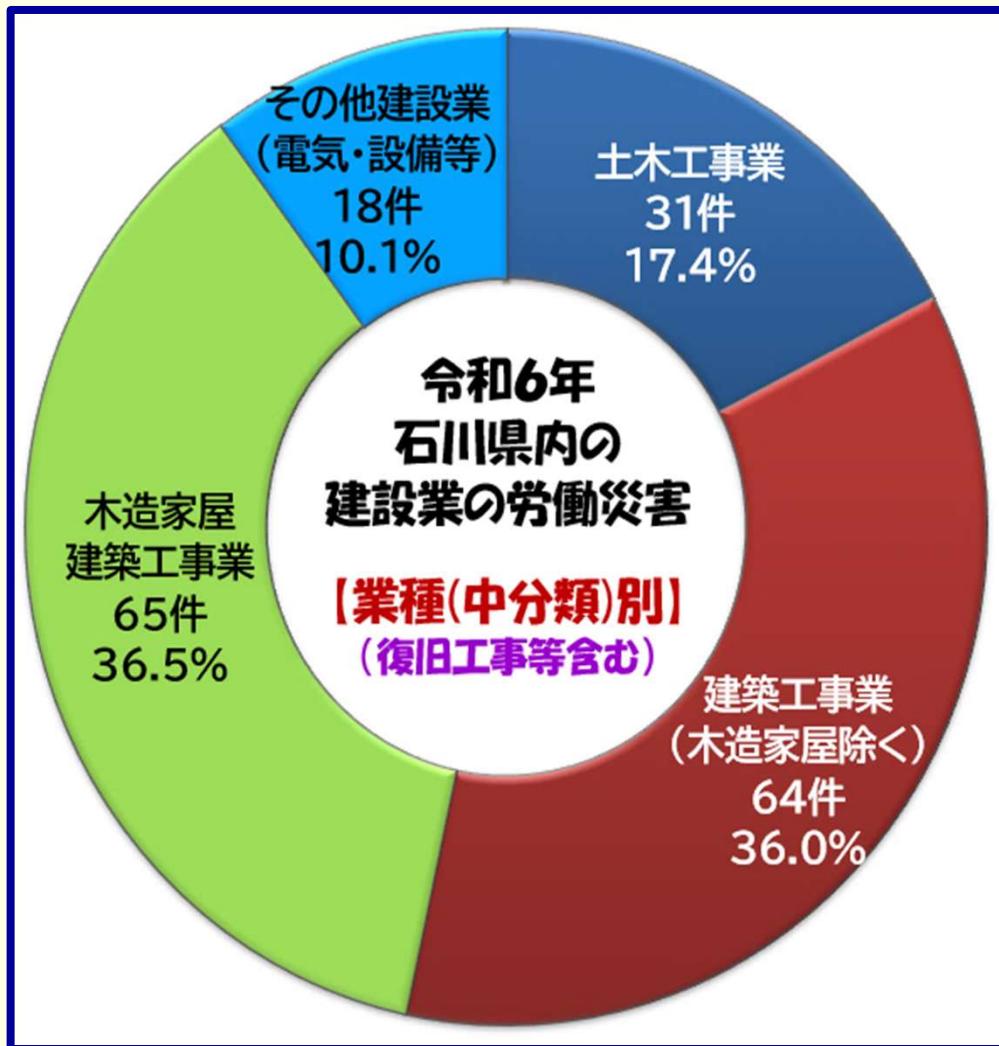
- ◆ 家屋解体工事（公費解体等）での災害が最も多くを占め、工事の本格化に伴って災害比率も増加しており、施行のピークを迎えた令和7年3月以降は、全体の6割を超える比率で推移している。
- ◆ 仮設住宅建築工事及びその他の土木工事での災害が同率2番目で、それぞれ12.6%を占めている。
- ◆ 仮設住宅工事での災害が一段落している一方で、継続的に施工されている道路・河川・山林の緊急対策等の土木工事での災害比率が増加傾向にある。

【参考統計5-3】建設業の労働災害の推移（石川県内） (復旧関連工事の影響等)



【参考統計5-4】建設業の労働災害の内訳(石川県内:令和6年) (復旧関連工事の影響等:業種・中分類別)

① 復旧工事等を含む(建設業全体)



② 復旧工事等を除く

